

公益財団法人 大原芸術財団
2025年度 年次報告書

2025
ANNUAL
REPORT

年次報告書発行にあたってのご挨拶

平素より、公益財団法人大原芸術財団へご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2024年4月に財団名を変更した私たちの2025年度の活動についてご報告できることを大変うれしく思います。新しい財団の名前も浸透し、研究所と二つのミュージアムを擁する財団としてさらに歩みを進めた1年間でした。

2025年度は、児島虎次郎記念館の開館で幕をあけました。多くの方に支えられ、児島虎次郎記念館が開館したことは、「みんなのマイミュージアム」をスローガンにしている私たちにとって、大変うれしく、また、今後の私たちの進むべき道を示す出来事となりました。そこから始まった2025年度の私たちをぜひご覧ください。そして、この年次報告書を読まれる皆さまにとっても私たちが「マイミュージアム」となれることを願っています。

2026年度の活動を簡単にお伝えいたします。空調設備等の更新のため、2カ月近い休館を昨年度末から今年度の始めまで行いました。この間に職員たちと「みんなでやってみよう」というイベントを行いました。これは、管理職、正規職員、パート職員たちが一堂に会して「大原芸術財団の価値とは何か」について考えるものでした。私たちとともに活動をしてくださっている様々なお立場の方に「講師」としてご参加いただき、私たちとの活動についてコメントをいただきました。講師の方々からいただいたコメントを通じ、日々の活動のなかでは意識していなかった自分たちの活動の意味に気づき、大原芸術財団について考えるよい機会になったのではないかと思います。再開館と同時に、大原芸術財団、大原家が持つ「中国絵画」の展覧会を開催しました。本展のシンポジウムには海外からも登壇者をお呼びし、大原芸術研究所所長三浦篤の提唱する「発信と交流」を実現させました。そして、5月には児島虎次郎記念館にご来館くださったお客様が10万人に達しました。想定より早く、多くのお客様に足をお運びいただいたことをとてもうれしく思いました。また、夏に開催された「おさんぽ美術館事業フォーラム」は30年にわたる私たちの未就学児童対象プログラムにアカデミアの視点から光をあてるもので、まさに、大原芸術研究所ならではの活動だったと思っています。もちろん、従来からの大原美術館後援会やオフィシャルパートナーの方々ともより広くそしてより深い関係構築を進めております。

私たちがこのように事業を進めることができるのも、日頃のご支援のおかげでございます。心より御礼申し上げます。ミュージアムをめぐる環境は厳しく、自由な活動を存分に進められる財務状況にあるとは、まだまだ胸をはれません。それでも、皆さま方のご支援をいただきながら、本年度も、研究活動を深化させるだけでなく、職員たちがいきいきと働き、創造力を発揮できる財団を目指し、人びととアートをつなぐ地方のミュージアムとして活動を進めてまいります。

引き続きのご支援のほど心よりお願い申し上げます

公益財団法人大原芸術財団
代表理事

大原 あかね



大原芸術研究所



大原美術館



倉敷考古館



みんなの
マイミュージアム

私たちは、来館者のため、地域社会や産業振興のため、また未来の人々のためにも存在し、立場や状況によるバリアを越え、すべての人に自分のミュージアムだと思っていただけることを目指して、日々、活動しています。私たちは「みんなのマイミュージアム」というスローガンとともに、アートをあらゆる人たちに届ける喜びを皆さまとともに実感していきたいと考えています。

みんなのマイミュージアム基金

01

作品と鑑賞のより良い環境づくり

もうすぐ、開館100年目を迎える大原美術館、開館80年目を迎える倉敷考古館とともに、館内各所の老朽化と日々戦っています。建築上のバリア解消、建物、そして空調・照明設備の管理・修繕・改修には膨大な作業と費用がかかります。しかし、作品と来館者とが共に心地よい環境を維持するためには、欠くことができません。

02

美術や文化にかかわる体験の提供

明日を担う子どもたちが幼児期から美術や文化にかかわることができるように、そして、あらゆる人が、想像力・創造力をはばたかせる様々な体験の場を提供するためにご協力ください。未来をつくる子どもたちのために、またすべての鑑賞者や未来の利用者のために、これからも各種事業を展開します。

03

アーティスト支援

新たな歴史をつくっていくアーティストたちと一緒に応援しましょう。作家協同交流事業など、アーティストの制作活動を支え、その作品を当館で公開する活動を行っています。

04

貴重な美術品の研究、修復・保存

貴重な文化財を守り、未来へと伝える活動をご支援ください。作品に関する調査・研究は、ミュージアムの活動の骨格です。また、作品は時に修復が必要な場合があります。これらはすべて、貴重な文化財とその価値に対する理解を促し、守り、未来へと伝えるための当財団の地道な活動です。

05

大原芸術研究所への支援

「芸術研究は人間研究である」をコンセプトに、さまざまな分野の方々「芸術」をプラットフォームに研究活動を進め、大原美術館と倉敷考古館を運営しています。倉敷ならではの発見や知見を創出し発信を続け、歴史ある収蔵品と活動を未来へ繋げるため、皆様のご支援をお願いします。

06

代表理事におまかせ

いただいたご支援は、大原芸術財団の諸活動の資金として活用させていただきます。幅広くご支援くださる方は、こちらをご選択ください。

Ohara Art Foundation
公益財団法人大原芸術財団

Mission

私たちは、芸術、学問、そして人間への深い信頼のもと、
常に新しい知見を発信し、未来の希望へ貢献します

Vision

アカデミアと土地の力が響きあうことで築かれる
強くてしなやかな社会を実現します

沿革

- 1908(明治41)年・・・児島虎次郎 第一回ヨーロッパ留学(のちに二度渡欧)
- 1921(大正10)年・・・現代仏蘭西名画家作品展覧会開催(於：倉敷女子尋常小学校)
- 1922(大正11)年・・・第二回現代仏蘭西名画家作品展覧会開催(於：倉敷尋常高等小学校)
- 1923(大正12)年・・・第三回泰西名画家作品展覧会開催(於：倉敷尋常高等小学校新川校舎)
埃及、波斯及び土耳其古陶器展覧会開催(於：倉敷尋常高等小学校新川校舎)
- 1930(昭和5)年・・・11月5日 大原美術館開館
初代館長として武内潔真就任
- 1935(昭和10)年・・・財団法人となる(2011年に財団法人から公益財団法人へ移行)
- 1945(昭和20)年・・・絵画疎開(6～7月にかけて実施)
7月1日以降 戦争による臨時休館
12月1日 再開館
- 1946(昭和21)年・・・第一回美術講座開催 講師：須田国太郎
- 1950(昭和25)年・・・創立20周年記念行事(記念演奏会のためベヒシュタインのピアノ購入)
11月 倉敷考古館開館
- 1951(昭和26)年・・・アンリ・マチス展、パブロ・ピカソ展開催
- 1957(昭和32)年・・・倉敷考古館初代館長として武内潔真就任
- 1961(昭和36)年・・・分館開館
- 1961(昭和36)～
70(昭和45)年・・・現在の工芸・東洋館が順次開館
- 1973(昭和48)年・・・倉敷考古館第二代館長として間壁忠彦就任
- 1964(昭和39)年・・・大原美術館第二代館長として藤田慎一郎就任
- 1965(昭和40)年・・・創立35周年記念行事(記念座談会に後の館長高階秀爾登壇)
- 1972(昭和47)～
81(昭和56)年・・・倉敷アイビースクエア内に児島虎次郎記念館が順次開館(2017年閉館)
- 1982(昭和57)年・・・第一回大原美術館ギャラリーコンサート開催
- 1993(平成5)年・・・未就学児童対象プログラム事業開始
- 1997(平成9)年・・・年二回の特別公開として有隣荘を会場とした展覧会事業開始
(2002年からは現代作家を招いての展覧会を継続)
- 1998(平成10)年・・・大原美術館第三代館長として小倉忠夫就任
- 2002(平成14)年・・・大原美術館第四代館長として高階秀爾就任
後援会設立
- 2005(平成17)年・・・ARKO(Artist in Residence Kurashiki, Ohara)事業開始
第一回招聘作家：津上みゆき
- 2006(平成18)年・・・倉敷考古館第三代館長として安井昭夫就任
- 2007(平成19)年・・・AM倉敷(Artist Meets Kurashiki)事業開始
第一回招聘作家：ログズギャラリー
- 2009(平成21)年・・・分館新収蔵庫完成
- 2016(平成28)年・・・倉敷考古館第四代館長として香川俊樹就任
- 2020(令和2)年・・・4月 COVID-19感染拡大による緊急事態宣言発出のため臨時休館
5月～ 8月 引き続き、空調設備更新のため臨時休館延長
11月 創立90周年記念シンポジウム開催
落合陽一氏 高階秀爾館長 御立尚資理事(コーディネーター)
- 2023(令和5)年・・・大原美術館第五代館長として三浦篤就任
- 2024(令和6)年・・・4月1日 公益財団法人大原芸術財団設立
大原芸術研究所を設立
初代所長として高階秀爾就任
- 2025(令和7)年・・・4月 児島虎次郎記念館がグランドオープン
大原芸術研究所第二代所長として三浦篤就任
倉敷考古館第五代館長として山花京子就任



倉敷考古館

事業紹介

展覧会事業

企画展 1925 展

大原美術館会場「1925：ピカソ・フジタ・ヤクシジーむすび100年前」
倉敷考古館会場「1925：百年前の考古學—好古から考古へ」

「1925」をキーワードに1世紀前の「今」にアートと考古を通してアクセスすることを試みる、ふたつのミュージアムがそれぞれの個性を活かし交差させた、初めてのダブル展示。

大原美術館では1925年に作成されたパブロ・ピカソ《鳥籠》と藤田嗣治《舞踏会の前》、ならびに建築界のアル・デコの先駆者 薬師寺主計の建築に主眼を置いて1925年を検証。倉敷考古館では、児島虎次郎の考古学への眼差しを100年前の日本考古学史の中から検証し、かつ1925年前の高梁川東西用水工事にともなう発掘調査に焦点を置いた展示を行った。

また、11月2日に座談会「アウト・オブ・民藝と芋づる1925年」、11月29日にシンポジウム＆建築ツアー「1925を建築から開く—さらに開いて考古、民藝、美術」を開催。令和8年1月31日に展覧会図録を発行した。

大原美術館（本館5・6室） 期間 10月2日（木）～12月21日（日）
倉敷考古館（4室） 期間 10月3日（金）～12月21日（日）

協賛 エヴァホール、うさぎや、株式会社三晃空調、
ナカシマホールディングス株式会社、株式会社藤木工務店
協力 オーエムグループ
後援 大原美術館後援会



特別展 森村泰昌「ノスタルジア、何処へ。」—美術・文学・音楽を出会わせる—

美術家・森村泰昌の個展。令和7年秋の有隣荘特別公開を兼ねて開催した。瀬戸芸美術館連携プロジェクトの一環となり日本博の助成を受けて実施。10月11日に記念シンポジウム「視線の交錯を思考する—西洋・日本・アジア—」を実施した。

会場 大原美術館本館、児島虎次郎記念館、有隣荘
期間 10月7日（火）～11月9日（日）

主催 公益財団法人大原芸術財団 大原芸術研究所・大原美術館、
「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト実行委員会（事務局：公益財団法人福武財団）、
独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協賛 エヴァホール、うさぎや、株式会社三晃空調、
ナカシマホールディングス株式会社、株式会社藤木工務店
協力 国立大学法人岡山大学 DS（データサイエンス）部、語らい座 大原本邸
後援 大原美術館後援会



設備の改善

作品を保存するために重要な設備の充実と定期的な建物の保守管理に加え、分館地下の高圧受変電設備（キュービクル）を地上階へ新設。

また、2026年2月9日から4月24日までの期間（75日間）を全館休館とし、本館の空調と電気設備の更新、ならびに展示室照明のLED化等の設備改修工事を実施した。



教育普及事業

包括的教育普及企画

なんなん DAYS ～ミュージアムで出会うなんなん？～

「ミュージアムで出会うなんなん？」をテーマにした大型ワークショップイベント。

実施日 11月15日（土）、16日（日）
場所 大原美術館、倉敷考古館
来館者数 2804人
なんなんDAYS参加人数 465人
ワークショップ参加延人数 1580人

協賛 エヴァホール、オーエムグループ、
岡山トヨタ自動車株式会社、うさぎや、サンワサプライ株式会社、
株式会社千田組、高砂熱学工業株式会社、株式会社フジワテクノアート、
双葉電機株式会社、両備グループ、ONE GROUP
協力 オーエムグループ
後援 大原美術館後援会、OHARA+、倉敷市教育委員会
助成 公益財団法人福武教育文化振興財団



2025 年度 おさんぽ美術館

倉敷市を中心とした幼稚園・保育園・こども園等の園児を対象に、園児が美術や美術館に親しむことを目的として、鑑賞プログラムを実施。

参加園数 27園
実施回数 77回
参加総数 園児 1,588人
引率 273人



ワークショップ いこう de オオハラ 2025

大原美術館と倉敷考古館の所蔵品をもとに、さまざまな発見や想像を楽しむワークショップを実施。

実施日数 9日
実施回数 15回
会場 大原美術館
倉敷考古館
参加総数 129人



その他

高階秀爾顕彰記念シンポジウム「高階秀爾館長と大原美術館」

2024年10月に永眠した前館長の高階秀爾を追悼するためのシンポジウム。

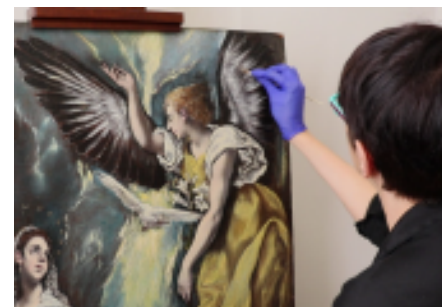
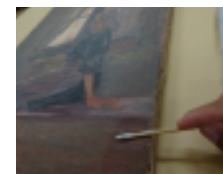
実施日 2025年10月17日（金） 司会 三浦篤（大原芸術研究所長・大原美術館館長）
会場 倉敷公民館 登壇者 河野元昭（東京大学名誉教授）
聴講者 約100人 津上みゆき（画家）
柳沢秀行（財団本部付シニアアドバイザー）



作品の保存修復

貴重な文化財を守り、未来へと伝えるために、日ごろのメンテナンスに加え、2025年度は一般財団法人クラレ財団の助成により、以下6点の作品を修復。
エル・グレコ《受胎告知》については、プラダ美術館の修復技術者の協力を得た。

児島虎次郎《凝視》《窓辺の少女》《花》《花》《蓮の花》
エル・グレコ《受胎告知》



わたしにとっての
「マイミュージアム」とは

みんなの
マイミュージアム



研究員・学芸員
ほんさん

交流が生まれる場所

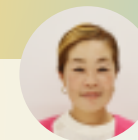
ミュージアムでは展示を通じて多くのコミュニケーションが生まれます。人と人はもちろん、作品とそれを鑑賞する人や、さらには全く異なる時代や地域に生まれた別々の作品が、展示室に並ぶことで豊かな共鳴を生み出しています。見る、聞く、話す、感じる—様々なコミュニケーションで溢れる文化の交流地点、それがわたしにとってのミュージアムです。



研究員・アーキビスト
まさつぐさん

人は、ものを残す。ものは、人を残す。

一枚の絵に立ち止まる。一つの土器の手ざわりを想像する。一通の手紙に、まだ会ったことのない誰かの声を重ねる。絵画や史料、考古資料など、その一つひとつには、人々の暮らしや願い、喜びや挑戦が息づいています。時代や分野を越えて受け継がれてきたものに触れるたび、新しい発見や気づきが生まれる。そんな出会いが、一人ひとりにとっての「マイミュージアム」を育んでいくのだと思います。



運営チーム
みしなさん

作品だけでなく人の温かさに出会えるミュージアム

大原芸術財団では100人近くの仲間が、それぞれの役割を担い支えあいながら働いています。立場や部署に関係なく声をかけあい、困ったときには自然と手を差し伸べる。たわいもない会話で笑い、お互いを労う。人と人との温かいつながりが、訪れるお客様にも心地よい時間を届けられるのだと思います。そんなマイミュージアムにぜひお越しください。

ご協賛・ご寄付の実績

入館料収入以外の収益として、ご協賛やご寄付を広く募ることにより、大原芸術財団の持続可能性を高めてまいります。
オフィシャルパートナー（法人協賛）、後援会（個人会費）、基金（個人・法人寄付）の結果をご報告します。

大原芸術財団オフィシャルパートナー

2021年度に創設したオフィシャルパートナーも5年目を迎え、法人数の増加とともに各パートナー法人様と様々な取り組みを行い、その活動の幅を広げています。方針として掲げている“入館料収入以外の収入源の確立”に向けて、パートナー数の増加と制度の拡充を一歩ずつ進めてまいります。

オフィシャルパートナー法人数と協賛金額

	550 万	330 万	110 万	55 万	33 万	11 万	法 人 数
法 人 数	3 社	2 社	19 社	34 社	47 社	101 社	206 社
協賛金額	1,650 万円	660 万円	2,090 万円	1,870 万円	1,551 万円	1,111 万円	協賛金総額 8,932 万円

展示室内でのパートナー法人様の記念式典の実施や、特別企画アートサロンの開催について、ご報告いたします。



パートナー企業の社員研修の実施

新入社員から役員幹部に至るまで多くのパートナー企業の社員の方に研修としてご来館いただきました。
展示室の作品を題材にした課題付き鑑賞のグループワークや、閉館後の本館内にて対話型鑑賞を行うなど、アート鑑賞を通じてビジネススキルの向上と感性を磨くプログラムを実施しました。

アートサロン

2025年10月16日(木)の閉館後にオフィシャルパートナー特別企画「アートサロン」を開催いたしました。
美術家・森村泰昌氏をゲストにお迎えし、同時期に開催していた『令和7年秋の有隣荘特別公開 森村泰昌「ノスタルジア、何処へ。」—美術・文学・音楽を出会わせる—』を森村氏ご本人にツアー形式でご案内いただきました。



みんなのマイミュージアム基金

2023年より、入館料収入以外の収益を持続可能な事業存続の柱とするため、新たに「みんなのマイミュージアム基金」を設立しました。この基金を通じてご寄付をいただくことで、大原芸術財団のためだけでなく、寄付をしてくださった方々にも喜びを感じていただけるよう、寄付の使途を選択できる仕組みを整えました。



2025年度使途別の件数と金額

①作品と鑑賞のより良い環境づくり	30 件	167,000 円
②美術や文化にかかわる体験の提供	9 件	41,000 円
③アーティスト支援	11 件	83,000 円
④貴重な美術品の研究、修復・保存	54 件	375,000 円
⑤大原芸術研究所への支援	8 件	80,000 円
⑥代表理事におまかせ(その他、使途なしを含む)	236 件	15,314,476 円

近年の寄付の報告

年度	件数	寄付金額
2023 年度	102 件	52,253,205 円
2024 年度	213 件	17,195,922 円
2025 年度	348 件	16,060,476 円

寄付イベントの実施

12月の寄付月間に合わせ、『ドキドキ！楽しみながらはじめての寄付体験～自分の想いをだれかにとどけよう！～』を実施しました。子どもたちが「寄付」を身近なこととして考え、アートを通して誰かのために行動する喜びを体験する機会となりました。

寄付月間企画特別賞「美術館賞」も受賞しました。

2025年12月28日(日) 対象：未就学児童～小学生

参加：67人 寄付総額：10,010円



大原美術館後援会

2025年度は、総額988万円の会費を賜りました。

年度会費は公益財団法人大原芸術財団への寄付金1000万円、次年度に352万円繰越しました。

また、地域とのつながりを深める取り組みの一環として、FMくらしきのスポンサーとなりました。

大原美術館後援会会員数

個人プレミアム会員	117 人	合計 830 人
個人会員	713 人	

後援会主催企画

対談「児島虎次郎、西へ東へ～時代を駆け抜けた軌跡を語る～」

3月8日(日)、倉敷市立美術館講堂にて対談を開催し、99名の参加者を迎えました。児島虎次郎がヨーロッパや東西アジアの異文化に触れ、その経験を「作品」として日本へ紹介した足跡について、大原芸術研究所所長・大原美術館館長の三浦篤氏と、倉敷考古館館長の山花京子氏が専門的な視点から語り合いました。また、児島虎次郎の孫である加計美術館館長・児島塊太郎氏にもご参加いただき、多角的な視点から児島虎次郎の人物像や作品への理解を深められる貴重な機会となりました。



わたしにとっての
「マイミュージアム」とは

みんなの
マイミュージアム



法人チーム
ささきさん

日常に溶け込むミュージアム

私にとって、全ての「ミュージアム」は公園のようにとても身近な存在です。大原美術館のある倉敷で生まれ育ったので、良いことがあった日にも、嫌なことがあった日にも、大好きな人たちを誘ってみたい、独りでふらっと訪れたり、様々なミュージアムに何度も足を運んできました。
あたりまえにミュージアムがある日常がこれからも未永く続いていくことを祈り、日々の業務がそんな未来に繋がっていることを誇らしくも思いながら働いています。



プロモーションチーム
たかぎさん

地域や時代を超える出会いの場所であるために

ミュージアムでは、地域や時代を超えた作品に出会うことができます。作品の見方に正解がないのも魅力の一つで、作品と向き合って自由に感じる事が出来ます。過去の人たちはこの作品をどのように見たのか？その当時の作品を実際にみることが出来る喜びと、その長い歴史の途中に私たちがいて未来につないでいく使命があります。仕事を通じて、ミュージアムの魅力を届け、一人でも多くの人の思い出の場所になるよう努めています。



ミュージアムショップ
ふじわらさん

過去からの贈り物を身近に感じられる場所

私にとって大原美術館は存在して当たり前の美術館でした。決して当たり前ではなかった、後世に遺そうとする多くの人々の努力の証だったと気付いたのは大人になってからでした。私欲ではなく後進のためにと集められたコレクションを前にすると励まされるような気持ちになります。
誰もが芸術に触れられることが当たり前ではなかった時代からの贈り物を大切に、芸術を身近に感じられるような思い出を持って帰っていただきたいです。

オフィシャルパートナー 一覧

2002 年
倉敷紡績株式会社
株式会社クレ
岡山トヨタ自動車株式会社
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
株式会社三栄
株式会社山陽新聞社

2003 年
SUENAGA Group
井上公認会計士事務所
日本オリープ株式会社
RSK 山陽放送株式会社
株式会社荒木組
岡山ガス株式会社
テレビせとうち株式会社
株式会社倉敷アイビースクエア
学校法人順正学園
学校法人加計学園
ナカシマホールディングス株式会社
株式会社いのうえ
株式会社倉敷ケーブルテレビ
クラモクホームズ株式会社
丸五ホールディングス株式会社
カモ井加工紙株式会社
平松エンタープライズ株式会社
萩原工業株式会社
株式会社倉敷国際ホテル
学校法人川崎学園
司法書士法人永田事務所

2004 年
倉敷化工株式会社
岡山放送株式会社
医療法人誠心会 佐藤整形外科

2005 年
株式会社藤木工務店 倉敷支店
倉敷繊維加工株式会社
株式会社中国銀行
株式会社メディテックジャパン

2006 年
斎久工業株式会社 岡山支店
JFE スチール株式会社 西日本製鉄所
アナテックサービス株式会社

2007 年
森脇法律事務所
オルパヘルスケアホールディングス株式会社
株式会社 MGH 由加温泉ホテル山桃花
藤徳物産株式会社

2008 年
クラブン株式会社
安田工業株式会社
旭化成株式会社 水島製造所
旅館くらしき
ENEOS株式会社 水島製油所
株式会社誠屋
イオンモール株式会社 イオンモール倉敷
サンワサプライ株式会社

2009 年
株式会社中原三法堂
倉敷帆布株式会社
コクヨ山陽四国販売株式会社

2010 年
高砂熱学工業株式会社 中四国支店
株式会社吉井 吉井旅館
大倉工業株式会社
株式会社トマト銀行

2011 年
株式会社岡山臨港
株式会社ケイコーポレーション
倉敷製帽株式会社

2012 年
関東電化工業株式会社 水島工場
クラレテクノ株式会社
社会医療法人全仁会 倉敷平成病院

2013 年
浅野産業株式会社
株式会社クラブオドライビングスクール
大山日ノ丸証券株式会社 倉敷支店
株式会社中電工 倉敷支社
モトヤユニテッド株式会社
株式会社岡山日山

2014 年
岡山県貨物運送株式会社
株式会社廣榮堂
医療法人水清会水島第一病院
三菱自動車工業株式会社 水島製作所
株式会社成通
玉島信用金庫
株式会社フジワテクノアート
コアテック株式会社
中銀カード株式会社
ネットヨタ岡山株式会社
株式会社ベティスミス

2015 年
株式会社チクバ装飾社
水島信用金庫
社会医療法人 創和会
株式会社トンボ
JFE ミネラル株式会社 水島合金鉄事業部
岡山ヤクルト販売株式会社
一般財団法人倉敷成人病センター
株式会社三晃空調
株式会社サンラヴィアン
東海電機株式会社
中銀証券株式会社
萩原株式会社
旭テクノプラント株式会社
日本通運株式会社 岡山支店
ライト電業株式会社
倉敷運輸株式会社
E・J ホールディングス株式会社
株式会社 K's グループ
医療法人庸英会 まさよし内科小児科クリニック
本州四国連絡高速道路株式会社

2016 年
株式会社中野コロタイブ
オージー技研株式会社
一般財団法人淳風会
倉敷まちづくり株式会社

2017 年
日本生命保険相互会社 倉敷支社
株式会社エバルス
株式会社モダン・プロ
株式会社浦辺設計
太陽電機工業株式会社
株式会社システムタイズ
株式会社木村商会
大善株式会社
セロリー株式会社
株式会社ビザビ
大和証券株式会社 岡山支店
みのる産業株式会社

2018 年
野村證券株式会社
医療法人誠和会
株式会社明石スクールユニフォームカンパニー
株式会社シンニチロ
東洋重機工業株式会社
中国電力ネットワーク株式会社 倉敷ネットワークセンター
セコム株式会社
株式会社サンヨープレジャー
株式会社シマダオール
新水マリン株式会社
中銀リース株式会社
ワタナベ工業株式会社
双葉電機株式会社
株式会社千田組

2019 年
株式会社アドテックプラズマテクノロジー
オーエムホールディングス株式会社
積水ハウス株式会社 岡山支店
東京海上日動火災保険株式会社
両備ホールディングス株式会社
株式会社天満屋
ローツェ株式会社
三井不動産商業マネジメント株式会社 三井アウトレットパーク倉敷
株式会社クラビズ
株式会社山方永寿堂
株式会社コンケン

2020 年
株式会社ウエスコホールディングス
医療法人天和会 松田病院
シバセ工業株式会社

2021 年
瀬戸埠頭株式会社
院庄林業株式会社

2022 年
ファシリティジャポン株式会社
ONE GROUP
株式会社セールスフォース・ジャパン
赤澤屋株式会社
おかやま信用金庫
株式会社はるやまホールディングス
菅公学生服株式会社
株式会社デンショク
株式会社アステア
株式会社サムシングフォー
横山石油株式会社
株式会社 NICS
トヨタカローラ岡山株式会社

2023 年
株式会社英田エンジニアリング
株式会社ユーコム
株式会社協同
斐農土地株式会社
清手社会保険労務士法人
新青山株式会社

2024 年
大河社会保険労務士事務所
医療法人ゆずりはの木 脳神経外科・内科 眞壁クリニック
ビーブルソフトウェア株式会社
中谷興運株式会社
吉備興業株式会社
トマトリース株式会社
菱善地所有限会社 沼々事業部

2025 年
大日化成株式会社
平林金属株式会社
株式会社橘香堂
ナガセウィータ株式会社
中村建設株式会社
株式会社 ArTechX.ing
三菱ケミカル株式会社 岡山事業所
社会医療法人水人会
株式会社ダブルツリー
谷尾食糧工業株式会社
株式会社大三商行
株式会社トミヤコーポレーション
長谷工グループ
大原美術館ミュージアムショップ株式会社
社会福祉法人ちとせ交友会
金田コーポレーション株式会社
株式会社船井総合研究所
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社 EMBAN
学校法人作陽学園
株式会社白十字
日本たばこ産業株式会社
株式会社マルイ
ナガオ株式会社
株式会社まつもとコーポレーション
三菱ガス化学株式会社
高田織物株式会社
秋田税理士法人
ナイカイ塩業株式会社
株式会社テルミックス
服部興業株式会社
株式会社大本組
大紀産業株式会社
ネットヨタ山陽株式会社
株式会社クレスコ

2025年度 財務報告

正味財産増減計算書

■一般正味財産増減の部

(円)

	当年度	前年度	前年比(額)
入館料収入	437,825,556	420,432,883	17,392,673
図録売上収益	9,228,800	7,713,285	1,515,515
寄付金	8,915,000	7,000,000	1,915,000
その他公益事業収入	83,034,767	57,373,677	25,661,090
収益事業収入	9,429,689	5,136,636	4,293,053
受取補助金等	39,827,286	33,536,942	6,290,344
経常収益 計	588,261,098	531,193,423	57,067,675
人件費	231,675,708	233,570,649	▲ 1,894,941
減価償却費	86,704,912	67,043,514	19,661,398
その他事業費	180,133,861	215,181,418	▲ 35,047,557
その他管理費	21,497,780	20,937,364	560,416
経常費用 計	520,012,261	536,732,945	▲ 16,720,684
受贈美術品	175,923,000	-	175,923,000
当期経常増減額	68,248,837	460,478	67,788,359
合併による一般正味財産増加額	-	18,962,192	▲ 18,962,192
法人税等	1,021,000	175,400	845,600
当期一般正味財産増減額	244,171,837	19,422,670	224,749,167

■指定正味財産増減の部

	当年度	前年度	前年比(額)
受取補助金	-	237,850,000	▲ 237,850,000
受取寄附金	16,060,476	17,195,922	▲ 1,135,446
一般正味財産への振替額	▲ 39,827,286	▲ 33,536,942	▲ 6,290,344
当期指定正味財産増減額	▲ 23,766,810	221,508,980	▲ 245,275,790

正味財産増減額	220,405,028	240,931,650	▲ 20,526,622
---------	-------------	-------------	--------------

大原美術館 入館者数(人)	228,398	240,440	▲ 12,042
倉敷考古館 入館者数(人)	3,116	3,228	▲ 112

※2025 年度は、2026 年 2 月 9 日から全館休館した。



「みんなのマイミュージアム基金」 ご寄付のお願い

すべての方の「マイミュージアム」になるため、私たちは「みんなのマイミュージアム」をスローガンにしています。そしてこのたび、倉敷考古館も仲間入りし、地域に根付いた活動をする民営のミュージアムとして、寄付者とともに歩んでいきたいと考えました。また、貴重な文化財である作品を守り、より良い環境の下で公開し続けていくために、研究所も設立しました。大原芸術研究所、大原美術館、倉敷考古館の活動を通し、人々とアートとの素敵な出会いの場になるべく、様々な活動を実施したいと考えています。ご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。

「公益財団法人」への寄付金の税制上の優遇措置について

※後援会の会費は、寄付に該当しません。

当財団は、「公益財団法人」の認定を受けています。公益財団法人への寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。優遇措置をお受けいただくためには、当財団からお届けする「領収書」を申告書に添付し、税務署に申告してください。

■法人の皆様

一般寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として損金に算入できます。

■個人の皆様

下記算式を選択し、算出額を税額または所得から控除できます。

税額控除	(寄付金額 - 2,000円) × 40%
所得控除	(寄付金額 - 2,000円)

ご寄付の方法

みんなの マイミュージアム基金

——— お好きな用途にご寄付ができます。 ———
幅広くご支援くださる方は、“代表理事におまかせ”をお選びください。

- 01 作品と鑑賞のより良い環境づくり
- 02 美術や文化にかかわる体験の提供
- 03 アーティスト支援
- 04 貴重な美術品の研究、修復・保存
- 05 大原芸術研究所への支援
- 06 代表理事におまかせ

■クレジットカード決済でのご寄付が出来るようになりました。

詳細については、こちら（寄付特設サイト）をご覧ください。



■従来の銀行振込みも可能です。

お振込み先
銀行支店名 中国銀行倉敷駅前支店
普通口座 2559568
口座名 公益財団法人大原芸術財団

お問い合わせ先

大原芸術財団 マーケティング課
〒710-8575 倉敷市中央1-1-15
TEL 086-422-0005
FAX 086-427-3677
E-mail kifu@ohara.or.jp

大原美術館後援会

<https://www.ohara.or.jp/supporters/>
E-mail supporter@ohara.or.jp



オフィシャルパートナー

<https://www.ohara.or.jp/official/>
E-mail partner@ohara.or.jp

